



日本基督教団 梅ヶ丘教会会報

ぶどうの木

発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2024年 9月22日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田 3-37-7
TEL : 03-3414-5772
FAX : 03-3414-5778

第255号 2024年10月号



『命を分け合う食事』

牧師 広田叔弘

フアリサイ派の律法学者は、イエスが罪人や徴税人と一緒に食事をされているのを見て、弟子たちに、「どうして彼は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と言った。

マルコによる福音書 2章16節

私は食べるのが好きです。食材に囲まれているだけでも、ホッとしたり、嬉しい気持ちになります。「食事を済ませる」という言い方があります。私は違うと思っています。もちろんラサラサツと食べる時はあるわけですが、食事は済ませるものではなく、感謝して美味しく頂くものです。本を読むことよりも食べるの方が大事です。物を食べることは、生きることそのものです。

主イエスは徴税人のレビを招きました。レビは応えて主の弟子になります。この後です。彼はたくさんの方たちを集めて食事を開きました。これは自分が主催する送別会です。これまでの付き合いに別れを告げ、自分の門出を祝ってもらおうのです。主イエスを真ん中にして、喜びの食事が進みます。

律法学者たちがこの様子を見ていました。クレームをつけます。当時は、徴税人や罪人

たちとは、食事を共にしないことが常識でした。パンは神さまからの賜物です。命を養う尊いものです。これを分け合う食事は、ひとりの神さまを信じ、共に生きて行くことを意味します。

徴税人は、ゆすり、たかりを生業とする人です。罪人とは、性を売り物にする人たちのことです。このような人たちは、神に背く汚れた者たち。一緒に生きることができない。だから食事を共にしてはいけなかったのです。しかしイエスはこの常識を打ち破りました。

「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」このように述べて堂々とパンを食べました。

人間は、パンを食べなければ生きて行くことが出来ません。パンを食べてはいない人は、この世に一人もいないのです。そしてキリストは、世のどん底で生きる人たちと一緒にパンを食べました。神さまから与えられるパンを分け合い、共に生きるためです。それは、神に背を向ける人生ではなく、神さまを喜びとする人生と一緒に生きていくためです。

キリストが命のパンです。主の弟子である私たちが、主を分け合う命の食卓を作っていきます。ただ食べるのではない。喜びと感謝をもって共に食べる食卓を作っていくのです。